

【資料 2】

平成 17 年 5 月 20 日（金）
情報リテラシー委員会 鈴木

情報リテラシー教育のためのテキストの作成にあたって

1. 目的

情報リテラシー教育活動の一環として、利用者向けテキストを作成する。

2. タイトル

『広島大学生のための情報活用ガイドブック 基礎編』（仮称）

3. 対象者

学部学生 1・2 年生

4. 作成にあたっての基本的な考え方

(1) 基本方針

図書館の利用方法を具体的に説明し、カウンターでの説明の代わりとなる内容を盛り込み記述する。

利用者が情報探索する目的別の構成とする。

OPAC や雑誌記事索引等の基本的ツールを説明する講習会用テキストとして活用できるようにする。

電子ジャーナル等の専門性の高い資料については、概要を説明するにとどめる。

図や事例を提示し、わかりやすい内容とする。

(2) 具体的な項目例

- ・ 大学図書館の役割と機能の概論。
- ・ 広島大学図書館の概要を紹介する。
- ・ 学術情報に関する基礎知識について触れる。
- ・ 図書館用語について、適宜、説明・解説する。
- ・ 広島大学図書館を利用する場合のツールとして利用できるものとする。
貸出・返却・館内複写・相互貸借申込・文献複写申込（学内・学外）・・・
- ・ 調査目的別に章立てし、その中で必要となる基本的な DB の概要・使い方を説明する。
（OPAC、NACSIS-Webcat、雑誌記事索引・・・）
- ・ 情報探索の専門的ツールについての概要を説明する。
（電子ジャーナル、2次DB・・・）
- ・ 著作権に関する基礎知識について述べる。
- ・ 索引を付与する。

5. スケジュール

- ・ 今年度中の刊行を目標とする。
- ・ 印刷することも想定し、本年中に初校ができるまで進めたい。